

まちづくり・観光

ぐんまビジタートイレ 認証制度

群馬県

認証制度を通じ県内トイレの ブランド化を目指す

・いかに優れた観光地であっても、トイレの印象が悪いと観光地全体の印象が悪くなってしまうため、トイレの印象を大切なおもてなしの一つと捉え、2003年に開始。

・清潔、安心・安全、見つけやすさ、使いやすさ等に関する基準に基づき認証。認証は2年ごとの更新、定期的な現地調査、トイレ管理者への清掃等に関する助言・指導を行い、高いレベルを維持。

・2015年4月1日現在で189件215か所のトイレを認証。

・また、認証制度の運用を民間団体(NPOぐんま)に委託することにより、現地調査の徹底やノウハウの蓄積に寄与。

●活動地域:群馬県内全域(群馬県産業経済部観光局観光物産課が担当)

日本トイレ大賞

ぐんまビジタートイレ認証基準

分類	具体的チェック項目	まちなか	道路脇	登山ハイキング	施設内
1 清潔	1 床は清潔か(水は拭き取ってあるか、すべりにくい)				
	2 便器の汚れはないか				
	3 尿石・屎ダレはないか				
	4 臭気はないか(換気や臭気対策はあるか)				
	5 周囲にゴミや雑草の繁茂などはないか				
2 安心・安全	1 明るさは、昼も夜も充分あるか				
	2 落書きはないか				
	3 故障はないか (便器・排水のつまり、流れない、動かない、照明が点灯しないなど)				
	4 破損はないか (壁・ドアの破れ、鏡・便器の割れ、カギ破損など)				
	5 立地環境は適正か(木の陰等、死角となっていないか)				
	6 管理責任者(連絡先)が明記されているか				(のぞき見)
3 見つけやすさ	1 見つけやすい位置にトイレがあるか				
	2 2方向以上から見える案内表示(ピクトグラム)があるか				
	3-1 歩いて見つけやすい位置に案内表示があるか				
	3-2 車で見つけやすい位置に案内表示があるか				
	4 男性用、女性用等、入口の判別がしやすいか				
4 使いやすさ	5 車いすでも利用できるトイレの表示があるか				
	1 フックまたは荷物置き場があるか				
	2 車いすでも利用できるトイレが一つ以上あるか (手すりの付いた便器、アクセスから段差、広さ、腰掛便座など)				
	3 床置き式小便器又は壁掛けリップ式小便器が一つ以上あるか。 (低リップは35cm以下が望ましい)				
	4 トイレ紙ペーパーが常備してあるか				
	5 手洗い設備があるか				
	6 きれいに拭いてある鏡はあるか				
	7 すべてのブースに汚物入れはあるか(女子用・多機能トイレブース)				
5 その他 (推奨項目)	8 駐車場があり、車いす利用者駐車スペースがトイレの近くにあるか				
	1 利用頻度に応じた清掃・管理をしているか	(のぞき見)	(のぞき見)	(のぞき見)	(のぞき見)
	2 清掃者及び清掃日時の記入表示はあるか	(のぞき見)	(のぞき見)	(のぞき見)	(のぞき見)
	3 手すりの付いた便器が一つ以上あるか(多機能トイレ以外)	(のぞき見)	(のぞき見)	(のぞき見)	(のぞき見)



おんせん県おおいた トイレクリーンアップ作戦(ソフト)



おんせん県おおいた トイレクリーンアップ作戦

おんせん県おおいたおもてなしトイレ推進本部

県内トイレの改修を推進し 「おもてなし」向上を図る

・2014年12月開始。

・県内765か所のトイレを調査し、県内の和式・洋式等の設備や、きれい・汚い等トイレの状況を把握。特に汚い要因について分析。県有施設のトイレの改修(市町村へは補助)を行い、きれいで快適なトイレを増やす取組を推進。

・トイレ利用者への意識や清掃管理者のモチベーション向上のため、「おもてなしトイレ認証制度」を導入し、要件をクリアしたトイレには認証シールを貼付、観光トイレマップで情報提供。

●活動地域:大分県内全域(大分県企画振興部観光・地域局観光・地域振興課が担当)

おんせん県おおいた トイレクリーンアップ作戦(ハード)



おもてなしトイレ認定事業

高知県

「おもてなし」に軸を置き

観光客の満足度アップを目指す

- ・2012年度開始。観光客の満足度向上のため、県民による「おもてなし」気運を高める取組の一環。
- ・観光客が利用するトイレにおいて、「おもてなし」に取り組んでいるトイレを公募・認定。認定条件は、清潔さ、明るさ、臭い、利用者へのおもてなし等の6条件。
- ・2014年度からは、特に優れた取組のおもてなしトイレの管理者を表彰することにより、更なるおもてなしトイレの取組への後押しをするとともに、県民全体の「おもてなし」意識の向上に寄与。

●活動地域：高知県内全域（高知県観光振興部おもてなし課が担当）

 日本トイレ大賞



和歌山おもてなしトイレ大作戦

和歌山県

2年間で県内トイレを重点整備

- ・観光客が心地良く滞在でき、再訪したいと思える県を目標に、観光地の印象を左右する公衆トイレの改修を2013年4月に開始。
- ・整備対象は、観光地、道の駅、鉄道駅、神社仏閣、飲食店、宿泊施設、国体関連施設、県有施設のトイレ。
- ・男性小便器の洗浄操作のセンサー化、大便器は最低1基を洋式トイレ・温水洗浄便座にするといった整備基準を設け、2013～14年の2か年で626か所を改修。整備主体ごとに、補助、融資等も行った。洋式（温水洗浄便座有）率は3%⇒62%、小便器自動洗浄率は35%⇒100%という成果に。
- ・県職員による公衆トイレの見回り等、維持管理の向上にも努める。
- ・県ホームページにはトイレマップも掲載。

●活動地域：和歌山県内全域（和歌山県商工観光労働部観光局観光交流課が担当）

●改修前



●改修後



信州まごころトイレプロジェクト

長野県

きれいなトイレの維持に注力

- ・トイレがきれいかどうかで観光地の印象は大きく変わるとの考えで、2013年開始。
- ・観光地の公衆トイレを外国人、女性、高齢者、子供等全ての観光客が快適に利用できるよう、①トイレ改修・改築・新設への補助、②「信州まごころトイレ」の認定・発信、③トイレ美化清掃研修会の継続実施、の3事業を実施。
- ・基準をクリアしたものを「信州まごころトイレ」として認定し、専用ホームページで情報発信するとともに、抜き打ちチェック、2年更新制により、高いレベルを維持。
- ・きれいなトイレを維持するため、清掃研修会を清掃事業者向け・地域住民向けに分けて実施し、知事自ら参加。

●活動地域：長野県内全域（長野県観光部観光誘客課が担当）

アートを活かしたまちづくり 「おおいたトイレナーレ」 事業

おおいたトイレナーレ実行委員会、大分市

トイレ空間をアートの力で開放

・おおいたトイレナーレは、大分市の中心市街地のトイレを舞台にした芸術祭で、2013年度より、商業ビル、店舗、公園等のトイレに現代アート作品を制作し、2015年7～9月に「おおいたトイレナーレ2015」を開催。

・トイレナーレはトイレとトリエンナーレ（3年ごとのアートフェスティバル）を組み合わせた造語で、全国、海外からも注目される観光イベントに。

・会期中は、トイレのアート作品を見ながら街の中を回遊。他にも地域の歴史や文化に触れる講座や、アーティストと市民がビルの屋上でお祭りを行うなど、トイレから始まり地域の活性化へとつながる取組に。

●活動地域：大分県大分市内（おおいたトイレナーレ実行委員会事務局（大分市商工労政課）が担当）

🏆 日本トイレ大賞



©yasunori takeuchi



©yasunori takeuchi



©yasunori takeuchi



草津温泉^{とうじ} 湯路広場

群馬県草津町

間接照明と陽の光を上手に活用

・付加価値の高いまちづくりを目的に、2010年に「湯源湯路街」基本構想を策定し、湯畑広場の再整備に着手。無計画に整備するのではなく、まず地域住民と話し合いや勉強会を行い、まちづくりのルールを地域の青年部が中心となり策定。ルールに沿い、余分な看板は一切付けず、ランドマークとなるよう建物を配置。

・照明は全て間接照明で、日中は天井から日光が入る開放感。

・緊急時の対応として緊急通報ボタンを設置。また、通路は路地にも抜けられるようにするとともに、防犯カメラも設置。大便器は全て温水洗浄便座。こまめに清掃、維持管理に努めている。

●施設所在地：群馬県吾妻郡草津町 草津温泉にある湯畑の湯路広場 ●設計：(株)K計画事務所

🏆 日本トイレ大賞

しろみばし 城見橋公園トイレ（城まちステーション）

岡山県高梁市

自然光を多く取り入れた明るいトイレ空間

- ・2013年度に市内公共トイレ135件の全数現地調査を実施し、観光客型、コミュニティ型、仮設型、教育施設型、公共施設付属型の5タイプに分類し、優先順位付けを行った上で、整備方針を策定。
- ・見直しの第一弾として、2014年度に観光客型で優先度が高いとされた城見橋公園トイレを整備。
- ・トイレ内、待合スペースとも死角が少なく、見通しが良く、自然光を多く取り入れた明るい空間に。
- ・維持管理を行う観光協会と協力し、休憩・待合・物販等で利用できるフリースペースを設置。備中松山城に向かう利用者の公園への滞留が増加。

●施設所在地：岡山県高梁市城見橋公園内 ●設計監修：出口敦東京大学大学院教授 ●設計：(株)田中大朗建築都市設計事務所



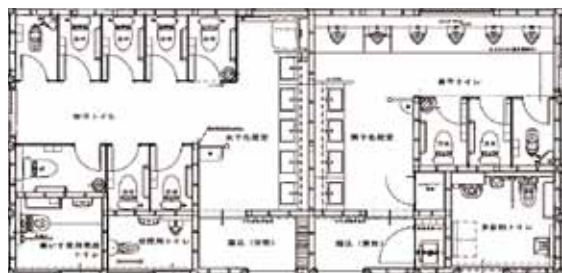
こあんしんどころ 御安心処公衆トイレ

長野県長野市

善光寺御開帳に合わせ改築

- ・7年ごとの善光寺御開帳などでの利用者急増に対応できるよう、特に女性用トイレの数を増やし、着物用に姿見も設置。
- ・多機能トイレにオストメイト(P.16)対応設備を設置。
- ・多機能トイレ以外に、子供用トイレと車椅子対応トイレを設置し、多機能トイレへの利用集中が減り、身体障害者も安心して使用可能に。設計に当たっては、障害者団体に意見を聴取。
- ・女性用トイレには全て擬音装置を設置。

●施設所在地：長野県長野市 善光寺山門（三門）東 ●設計：(株)中村建築研究所



伊賀の里モクモク手づくりファーム

株式会社伊賀の里モクモク手づくりファーム

ファームの雰囲気に合わせて温かみのあるデザインに

- ・利用者からの清潔さを求める声や、狭いという声など、安心して使用できるトイレの設置要望があり、2013年、駐車場及び施設内の授乳室に隣接して多機能トイレを新設。
- ・ファームの雰囲気に合わせた温かみのあるデザインに。トイレ案内サイン等はスタッフが手作りし、統一。
- ・ファミリー層が多いため、子供連れ・女性に配慮。具体的には、男女トイレともに子供用トイレ、おむつ交換台を、女性トイレには独立したパウダーコーナー等を設置。
- ・一般トイレ内にもオストメイト(P.16)対応設備を導入。

●施設所在地：三重県伊賀市西湯舟の農業公園内 ●設計：一級建築士事務所岬設計